

カットやスライス用に向く単為結果性トマト 「サンドパール」の栽培指針



サンドパールの断面図

品種育成の背景・ニーズ

生食用トマトでは、サラダ、サンドイッチなどカットやスライスする用途の需要が伸びています。また、生産者からは受粉作業が省力できる品種が求められています。

そこで、愛知県農業総合試験場では、カットやスライス用に向き、単為結果性を持つ赤い果色の生食用トマト新品種「サンドパール※（系統名：試交 10-2）」を育成しました。

品種の特性

「サンドパール」の果重は 200g 程度で、ゼリー部が落ちにくく、液だれが少ないため、サラダやサンドイッチなどのカットやスライスする用途に向いています。また、受粉・受精がなくても果実が大きくなる単為結果性を持っているため、着果をさせるためのホルモン処理やマルハナバチによる受粉が不要です。

※「サンドパール」は、愛知県が取得した登録商標（第 5724880 号）です。

主要特性

- ・ゼリー部が落ちにくく、液だれが少ない果実特性を持っています。
- ・受粉、受精がなくても果実が大きくなる単為結果性を持っています。
- ・完熟の果色は朱色に近い赤で、国内で生産されている一般的な大玉トマトの桃の果色とは外観が異なります。
- ・果形は豊円で、空洞果の発生は少なく、花落ち部は小さめです。
- ・通常、果頂部は尖りませんが、低温期を経過する作型では尖る場合があります。
- ・節間は「桃太郎ヨーク」より長めで、葉は短めですが下垂しやすいです。
- ・異常茎と葉先枯れの発生が少ないです。
- ・トマトモザイクウイルス (*Tm-2^a* 型)、萎ちょう病 (レース1、レース2) に抵抗性を示します。

適する作型

平坦地での促成栽培（7月下旬～8月播種）と半促成栽培（11月～1月播種）、中山間地での夏秋栽培（2月～4月播種）に適しています（愛知県基準）。抑制栽培（6月～7月中旬播種）は、秋季の収穫時に裂果が発生しやすいので避けてください。

栽培管理のポイント

○ 育苗管理

- ・育苗期は、極端な乾燥や高温を防ぎ、鉢の間隔を確保して、スムーズな生育を図ります。育苗時の節間は短めですが、徒長しないように管理します。
- ・定植適期の苗は、第1花房が開花前の蕾が米粒大の状態です。単為結果性の発現により、受粉・受精で果実が大きくなる従来品種に比べて早くから第1花房が肥大するため、やや若苗での定植を基本とします。

○ 栽植密度

- ・10a 当たりの栽植本数は、2,000 株が基本です。茎葉に十分な日射を当て、光合成を促進させます。栽植密度を高める（密植にする）と反収は増えますが、1果重は減少し、糖度（Brix）も低下します。特に、促成栽培では、密植によって着果率が低下し、可販果率も下がります。つやなし果の発生も多くなる傾向があるので注意してください。

○ 肥培管理・かん水

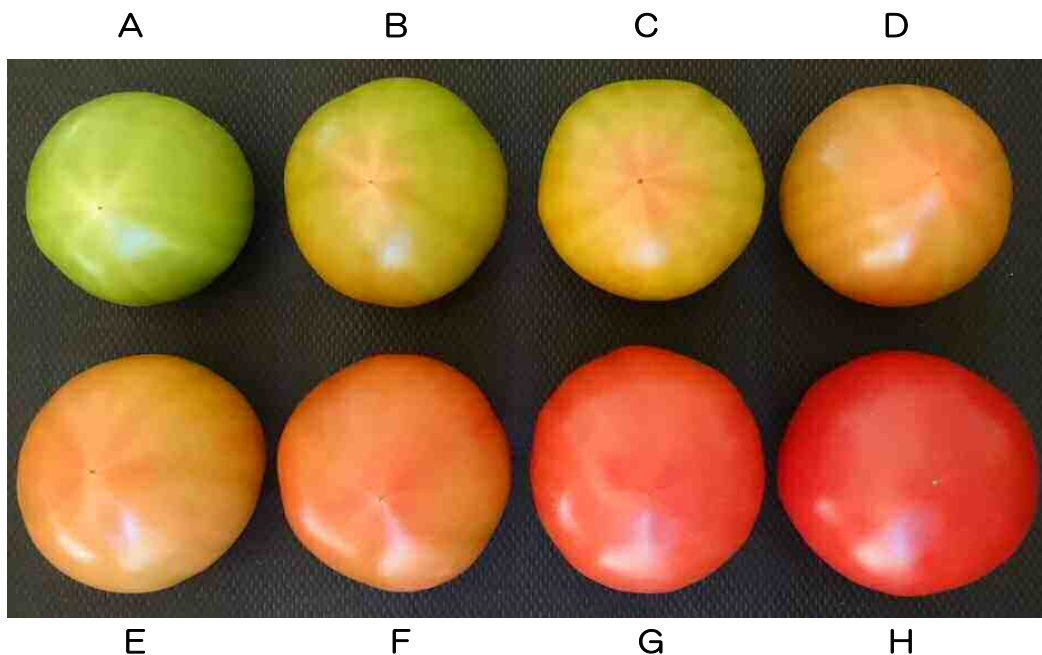
- ・基肥の窒素分量は、10～12kg/10a 程度を目安とし、前作の残肥量によって調節します。
- ・スムーズに活着させるため、定植直後は株元へのこまめなかん水に努め、活着したらかん水をやや控えぎみにして根を深く張らせます。
- ・第1花房が肥大し始め、成長点付近の本葉が内側に巻き込まなくなってきたら、追肥とともに本格的なかん水を開始します。
- ・初期の生育はややおとなしく、着果性が良いため、やや早めの施肥と定期的なかん水を行います。また、生育中盤からは節間が長くなりやすいため、誘引が遅れないようにします。
- ・草勢が旺盛になっても、異常茎は発生しにくいですが、葉は下垂し内側に巻き込んで受光体勢が悪くなるので、適正な肥培管理とかん水を心がけます。

○ 摘果管理

- 花房当たりの花数は、促成栽培では 4～5 花、半促成栽培では 5～6 花が通常です。単為結果性品種のため、適正な栽植密度で良好な草勢を維持すれば、促成栽培では 90%以上、半促成栽培では 95%以上着果します。無摘果では反収は増えますが、不良果が増え、1 果重は減少して不揃いとなり、糖度 (Brix) も低下します。したがって、第 1 花房は 3 果に、それ以降の花房は促成栽培では 3～4 果に、半促成栽培では 4 果に制限して 1 果重と品質の均一化に努めます。
- 促成栽培では、第 3～第 5 花房付近に花数が多い花房や頂裂果 (でべそ果) がみられる場合があります。花芽の分化時期に当たる育苗期または定植直後の環境による影響が考えられますので、高温や乾燥ストレスの軽減に努めてください。

○ 整枝管理・収穫

- 開花から収穫までの日数は、やや長めの中生品種です。生育中盤から節間が長くなりやすいため、誘引番線の位置が低い場合は斜めの誘引や、Uターン整枝を行うなどして、収穫前の果実が床面と擦れないように注意してください。
- 果実全体の着色を確認し、低温期は 70%の着色 (写真 F) から 80～90%の着色 (写真 G) で収穫します。4 月以降の暖候期は 20～30%の着色 (写真 C) から 40～50%の着色 (写真 D) で収穫します。
- 一般的な大玉トマトの桃の果色とは着色の印象が微妙に異なりますので、「サンドパル」の着色に慣れることが必要です。



○ 病虫害対策

- 土壌伝染性病害の発生がみられる場合には、対象病害に抵抗性を持ち、トマトモザイクウイルスの抵抗性が *Tm-2^a* 型の台木品種に接ぎ木します。
- 葉かび病に関しては、*Cf-9* 型の抵抗性を持っていないため、すすかび病やうどんこ病の発生防止も考えて、定期的な薬剤散布を行ってください。
- 草勢が旺盛になった場合には、葉は下垂して内側に巻き込むので、灰色かび病が発生しやすくなります。摘葉を適宜行って草勢の安定に努めてください。

命名の由来

サンドイッチのおとも（仲間・パル）にぴったりとの思いをこめて「サンドパル」と名付けました。カットやスライスする生食用としての利用に最適です。

種子の購入

「サンドパル」の種子は、平成27年7月から愛知県種苗協同組合（連絡先：松永種苗(株)、電話0587-54-5151）で販売しています。また、組合に加盟している愛知県内の種苗店でも購入できます。

現地での栽培事例

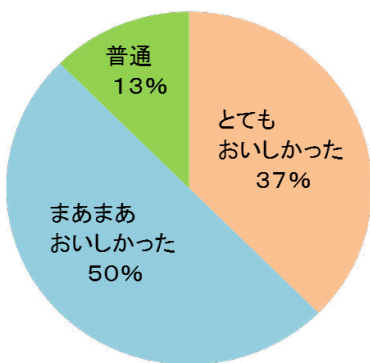
「サンドパル」は、平成27年には県内6カ所で栽培されています。作型は促成長期栽培、促成栽培、半促成栽培、夏秋栽培と多岐にわたっており、栽培様式も土耕栽培、水耕栽培の他、水平放任栽培など様々です。販売は、直売所や産直が中心で、「サンドパル」は慣行品種と差別化した商品として扱われています。

農業改良普及課の現地調査では、「サンドパル」は着果性が良く生産が安定していることを確認しました。

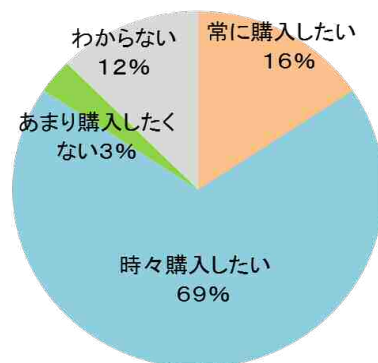


直売向けに完熟収穫にも取り組まれています

<試食の感想>



<店頭にあった場合の購入希望>



消費者アンケートの結果（回答者数32名）

また、消費者へのアンケート調査では、「とてもおいしかった」と「まあまあおいしかった」で87%あり、店頭があれば購入したいという回答が多く寄せられました。「サンドパル」はカットやスライスへの適性に加え、食味についても消費者に受け入れられることがわかり、今後も栽培が広がることが期待されます。

編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線390（企画普及部）

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi>

問い合わせ先 園芸研究部野菜研究室 内線332

この栽培指針は、平成27年度あいちが作った優良品種活用推進事業で作成しました。